

# 名事研=ユース

名古屋市立小中養護学校事務研究協議会  
<http://www.tcp-ip.or.jp/~meijiken>

No. 130

平成17年 7月 7日

発行 名古屋市立小中養護学校

事務研究協議会 情報部

発行責任者 白根 勲

5月18日、市教育センターにおいて平成17年度 定期総会が開かれ、平成16年度の事業報告等の審議のあと、林新会長が承認されました。平成17年度事業計画、予算案等についても承認され、新体制の下、本年度の名事研活動がスタートしました。

今年度のテーマは「学校事務未来！一歩前へ」です。

## 一人の一歩を自己啓発から

会長 林 敦子  
(御園小学校)



「知識労働者の動機づけに必要なものは成果である」(「断絶の時代」P. フドゥラッカより) 知識労働者は、知識をもって何かを成し遂げようとしています。よって、知識労働者には、与えられたものをこなすというかたちではなく、挑戦の機会が与えられなければなりません。知識労働者に成果を上げさせるべくマネジメントすることは、社会や経済にとってだけでなく、彼ら本人のために不可欠なことなのです。知識労働者は、自らがなすべきことを上からの指示によるものではなく知識によって、またそれは、人によってではなく目的によって規定されることを要求するものです。

近年の社会情勢の急変は想像をこえたものがあります。義務教育国庫負担問題、学習指導要領の一部改正、総合的な学習の見直し、学校評価システムの導入、地域運営学校等様々な動きと課題があります。こうした動きは、学校事務職員にとって、存在そのものが問われている時期にきていると言っても過言ではないと思われます。そんな中で、学校は、社会の要請に対応できる取り組みができているのか、事務職員は、今最大の变革期に足る「人」一人一人の意識が構築されているのかということを実際に考えなければなりません。

課題の解決にあたるためには、自らのやる意欲や気迫、チャレンジする原動力が求められます。これからの教育においては、時代の状況変化によって、生涯にわたり知識を高め、課題解決に向けての自己啓発力を身につけ努力しなければ、その変化に対応することができません。そして、「知識労働者の動機づけに必要なものは成果である」ことを受けてさらに言えることは、成果があればその成果を確認することにより反省の機会が持てるし、反省を生かせば、新たな道を必然的に切り拓いていけるのではないのでしょうか。

## 平成 17 年度の名事研活動について

副会長 宇佐美 吉勝  
(御劔小学校)

平成 12 年度から稼動した財務会計総合システムが 5 年を経過し、秋以降に端末機・周辺機器の更新が予定されています。この間、学校における事務職員の事務処理内容は大きく変わり、その後の愛知県給与・旅費システム、名古屋市職員情報システム・文書メール、県報酬システムの稼動等、他の政令指定都市にはない、急激な事務処理内容の変動がありました。また、学校に対する社会の要請もますます厳しさを増し、さまざまな教育改革の中、特色ある学校づくりの実現、学校評議員制度、学校評価の取り組みや教員評価の試行等、その要請に応えていく必要があります。学校事務職員には、特に厳しい市財政の中、教育予算の管理・執行において、学校運営全般の動きを視野に入れ、教育活動の円滑な推進と子どもたちの生き生きとした活動を支援するための効率的・効果的な執行が期待されています。

学校事務職員自身を取り巻く状況においても、平成 17 年度中にも義務教育国庫負担制度の見直しが予想されます。名事研では、昨年度からこうした状況下の中での将来を見据えた、事業の精選・スリム化を検討し、事務改善、研究・研修ができる組織づくりと機能強化を目指し進めてきました。しかし、なかなか改善しきれない状況もあります。今年度は「学校事務未来！一歩前へ」を年間テーマに設定し各専門部・世話係会との連携・協力をより強化し、新たな発想を取り入れた、会員個々のスキルアップを図るための事業等を展開できるように検討を進めます。また、市教委はじめ関係機関、他都市の研究會とも連携を深めるとともに、政令市移管に伴う研究協議会のあり方等についても検討します。

昨年度、今までの研究大会の成果と課題をふまえ、節目となる第 10 回名古屋市立小中養護学校事務研究大会を開催しました。今年度は年間テーマ「学校事務未来！一歩前へ」を大会テーマとし、新たな気持ちに切り替え、会員が一丸となって学校事務を考え未来につなげていくための機会として、平成 18 年 2 月に第 11 回目の研究大会を開催します。

事務局は、名事研運営全般についての、企画・立案機関としての機能を強化し、昨年度以上に各専門部・世話係会との連携を図っていきます。総務・研修・研究・情報の各専門部は年間テーマ「学校事務未来！一歩前へ」を活動の柱とし、各部門間の連携をさらに深め、会員のニーズにあった事業が展開できるような活動を進めます。

その他の事業として、平成 18 年度版学校事務ハンドブック編集を中村区事務研究会が担当をします。また、政令指定都市間の情報交換や第 39 回全国公立小中学校事務研究大会（愛知大会）実行委員会関係団体・組織との連絡調整などを行います。

会員それぞれの「学校事務未来！一歩前へ」をもとに連携・協力し、少しでも前に進むことができるよう、名事研のミッション（使命・存在意義）を探索し、進めていきます。

皆様のご協力をお願いいたします。

## 講演「名古屋の学校教育と学校事務」

講師 名古屋市教育委員会 学校教育部長 石井 久士氏



総会に先立ち、学校教育部長の石井氏より「名古屋の学校教育と学校事務」と題して、講演をいただきました。

名古屋の教育の現状について、学力低下問題、子どもたちをめぐる環境の変化、公教育の役割などに触れながら、詳しく説明していただきました。

また、学校評価についても触れ、学校事務職員が予算、施設整備などでの自己評価項目の設定の必要性や、学校事務のキャリア形成をどう進めるかが今後の課題であることを熱く語られました。

そして最後に「保護者・子どもに顔の見える学校事務職員であってほしい。」と締めくくられました。

平成17年度の名事研活動が始まりました。

1局4部の部長より本年度の活動について抱負を述べてもらいました。

### 事務局

「Every little helps」

事務局長 服部 紋子

最近、立て続けに「ハインリッヒの法則」という言葉を耳にする機会がありました。これは別名「1:29:300の法則」とも呼ばれ、「1件の重大事故が起こるまでに、29のかすり傷程度の軽災害があり、その裏にはケガはないがヒヤッとした300の体験がある」というもので、米国のハインリッヒ氏が労働災害の起こる発生確率を分析したものだそうです。少々、こじつけになるのかも知れませんが、この言葉はこんな風に言い換えることができないでしょうか。「1つの目標を達成するためには、29の実践や取組と300のちょっとした協力や思いが必要である。」といった具合です。学校事務も会員の皆さんによる、多くの知恵と協力がなければ、未来への一步前へとは進めないものだとも痛感します。

事務局では、学校事務が未来への一步を踏み出すために、皆さんの協力や思いを、各部への実践や取組へとつなげるために、お互いの風通しを良くしながら、名事研事業の企画、立案、そして連絡調整に努めていけたらと思います。

### 研究部

「Think global. Act local.」

研究部長 毛利 和正

現在、様々な改革が推し進められています。今秋には、中央教育審議会での議論を前提に、教育改革の方向性や義務教育国庫負担の問題

についても何らかの動きがあるのではないかと思います。そのような中で、これからの学校や求められる学校事務を予測し、今できることを実践していくことが大切だと感じています。

昨年度いろいろな場面で「着眼大局，着手小局」という言葉を耳にしました。もともとは囲碁の世界の言葉のようですが、「発想や観点は大きく、実行は部分的なところから」といった意味があるようです。まさにその言葉どおり、研究活動も数年先を見据え、広い視野から取りかかれることに一步踏みだしていくことが必要だと思います。

昨年度に引き続き研究活動を進めていきます。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

### 研修部

「手づくりの研修会をお届けします」

研修部長 石原 かおり

研修部に入部して3年が経ちました。いつのまにか経験年数だけは積み重ねてしまいましたが、若いフレッシュな部員さんを中心に活動していると改めて勉強させられる事がたくさんあります。

基礎研修会では、今後学校事務職員として必要な基礎知識を、全体研修会では、できるだけタイムリーなテーマをと、研修部員が一丸となって企画・運営しています。そんな企画・運営の原動力は会員の皆さんからの温かい、時には冷静で客観的なご意見や感想のお言葉です。自分たちの企画したものが、皆さんにどのように受けとめられたのかを聞かせていただくことは、次の企画への励みとなります。

今年度も、手づくりの研修会を会員の皆さんにお届けすべく、部員一丸となって取り組みますので、研修活動への皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

## 総務部

「視点を変えよう！」

総務部長 加島 道代

電車通勤をしているとホームのどの位置で待ち、どのドアを利用するかは必然と決まってきます。電車を降りたとき改札が近かったり、車両がすいていたり様々な理由はあるでしょうが、いつも通りの行動をすれば、慣れているので安心できます。しかし、いつもと違う行動をすると新発見することもあるでしょう。

仕事でも、昨年度はこの方法であったとか誰の役割だとか思い込んでいる場合はないでしょうか。知らず知らずのうちに固定観念に固執して、安心しています。視点を変えてみると、改善することが必ずあると思います。

総務部は、研究大会や総会の準備・運営を始め重要通知文集など便利な資料作成や他都市の研究大会案内などの事業をします。ひとつひとつの事業を進めていく中で、会員のみなさんと共に視点を変え、より良い内容となるよう進めていきたいと思ひます。

## 情報部

「みんなの力で1歩でも前へ！」

情報部長 白根 勲

今から3年前、広報部を改組し、情報部が発足しました。それまでの広報活動に加え、事務の効率化を目的として、名事研メールの配信を始めました。この『名事研メール』という名称も当時の情報部のメンバーが案を出しあって（いろいろな案がありました……）決定し、内容についても試行錯誤しながらスタートしたのを覚えています。あれから3年、名事研メールも配信回数33回を数えました。

情報部ではこれからもより良い情報提供を行い、共有化が図れるように部員全員で知恵を絞っています。一部が知っている情報をみんなが知っている情報にするのが情報部の一つの仕事だと考えます。そのためには会員のみなさんの協力が不可欠です。「こんな事例があったよ。」「こういう備品があると便利だよ。」どんな情報でも結構です、どんどんお寄せください。お待ちしております。

## 平成17年度役員等名簿

会 長	林 敦子 (御園小)	世話係 長	加藤豊子 (白鳥小)
副 会 長	山本和彦 (伊勢山中)	副世話係 長	山崎道子 (平田小)
副 会 長	中村紀子 (鶴舞小)	県事研 会 長	西脇忠彦 (守山西中)
副 会 長	宇佐美吉勝 (御劔小)	県事研 副 会 長	桑山賢治 (萩山中)
会 計	岩田さゆみ (前津中)	県事研情報企画部長	二村忠浩 (千石小)
監 査	塩田俊子 (山田小)	県事研 監 事	中村紀子 (鶴舞小)
監 査	奥村雅子 (東桜小)	全事研 副 会 長	仙田作吉 (滝ノ水小)
顧 問	大橋新太郎 (桜丘中)	全事研 理 事	松岡美晴 (本城中)
表簿用紙規格研究委員会委員	宇佐美吉勝 (御劔小)		
表簿用紙規格研究委員会委員	佐藤恵子 (幅下小)		
事務局 事務局 長	服部紋子 (豊臣小)		
事務局 次 長	高木英之 (今池中)		
	林 昭宏 (矢田中)	永井智子 (大磯小)	
	海野信一 (稲葉地小)	大野真由子 (上社小)	
研究部	毛利和正 (豊田小)	長松軒由美 (黄金中)	伊藤真也 (天白養護)
	加藤豊子 (白鳥小)	安達孝一郎 (田光中)	
	宮地里美 (本郷小)	山田陽一 (船方小)	
研修部	石原かおり (井戸田小)	中村昌也 (豊正中)	小池ひとみ (平子小)
	山崎文恵 (森孝中)	中村沙智 (豊治小)	遠藤 剛 (滝ノ水中)
	山内健嗣 (千種中)	山田雅代 (福田小分)	田中明美 (植田北小)
	坪井宏之 (楠西小)	藤原崇光 (柴田小)	
総務部	加島道代 (宮中)	吉田祐子 (志賀中)	宮田恵子 (供米田中)
	内藤洋子 (助光中)	佐藤治男 (米野小)	関水紀子 (成章小)
	川端真実 (葵小)	小出美保 (名城小)	平岩宗明 (大高小)
	井口貴夫 (筒井小)	服部裕実子 (中根小)	
情報部	白根 勲 (高田小)	佐藤恵子 (幅下小)	加藤里香 (明德小)
	大河内威雄 (新栄小)	早川数幸 (日吉小)	今村京子 (高木小)
	中林誠永 (金城小)	瀧田光晴 (萩山中)	福本定治 (志段味西小)

( は部長 は副部長 )